

Title	言語文化学 Vol.9 学会の活動/会則
Author(s)	
Citation	大阪大学言語文化学. 9 p.281-p.285
Issue Date	2000-03-31
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/78040">https://hdl.handle.net/11094/78040</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 学会の活動

平成11年5月27日 大阪大学言語文化学会第16回大会

### 〈研究発表会〉

野口 真一：Right Downward Monotone Quantifiers and N-type Anaphora

中道 静香：アラビア語カイロ方言における能動分詞のアスペクトについて

西川真理子：日本語の情意副詞の変遷について

陳 亭希：身体語彙を用いた慣用表現について  
— 日台大学生における語感調査の比較を中心に —

呂 曉慧：日本と台湾のテレビコマーシャルにおける家族像の比較研究

増田 幸子：アメリカの戦争映画における日本人の姿  
— 1942～1954年の作品を中心に —

関口 英里：現代日本における祝祭／消費空間としての東京ディズニーランド — その構造とメカニズム —

王 彩香：新華僑の中の「中国帰国者」家族とそのエスニシティ

小池 隆太：ロラン・バルトにおける他者としての「日本」  
— 『記号の帝国』をめぐって —

小塚 良孝：West-Saxon Gospels における faran の語法について  
— Authorship との関連 —

范 荅：清末におけるヴェルヌの翻訳  
— 日本訳からの重訳を中心にして —

前田 陽子：日本におけるグリム童話の受容  
— 巖谷小波と「お伽噺」 —

### 〈総会〉

活動報告

委員改選

新委員：

藤本和貴夫（委員長）、中埜芳之、坂内千里、三藤博、渡辺秀樹  
高木佐知子、板東美智子、堀井祐介、宮西久美子  
赤阪友紀子、北山誠、張修慎、服部圭子、森本郁代

会計報告（次頁の通り）

# 平成11年11月27日 大阪大学言語文化学会第17回大会

〈研究発表会〉

王 彩香：シンガポールの華僑社会—その深層にあるもの—

山住 勝利：アイデンティティーの新たな端緒

— バロウズからケルアックへ —

横山 香：ポピュラー・メディアはいかに理解可能か？

— ドイツのトーク・ショーとその批判を中心に —

温 雅琇：「日本語『てくる／ていく』と中国語『～來／去』の対照研究」

劉 綺紋：“過”形式のパーフェクト

〈講演〉

仙葉 豊教授：平野啓一郎『一月（いちげつ）物語』について

— 女と蛇と —

# 平成12年3月31日『言語文化学 第9号』発行

〈査読者〉

伊勢芳夫、井元秀剛、岩根久、植田晃次、浦啓之、大村敬一、  
大森文子、緒方典裕、沖田知子、尾崎久男、金子元臣、金崎春幸、  
北村卓、木村健治、木村茂雄、小門典夫、坂内千里、仙葉豊、  
高岡幸一、竹内章、田畑智司、津久井定雄、津田葵、  
Dybovski, Alexandre、中直一、中埜芳之、成田一、  
西口光一、服部典之、原田裕司、春木仁孝、深澤一幸、細谷行輝、  
三藤博、三牧陽子、宮本陽一、森祐司、森住衛、山田雄三、  
ヨコタムラカミ=ジェリー、ヨコタ村上孝之、我田弘之、渡辺秀樹

## 《平成10年度 会計報告》

(単位：円)

収 入		支 出	
学会費	546,000	『言語文化学』第7号印刷代	563,766
懇親会費	15,500	『言語文化学』発送費	32,000
利子・利息	1,341	懇親会費	25,873
前年度繰越金	1,051,172	通信費	28,510
『言語文化学』売上	0	消耗品費	4,947
		雑費（振込手数料）	1,574
		予備費	957,343
計	1,614,013	計	1,614,013

平成10年度会計担当委員 宮西久美子  
 会計監査（平成11年5月27日） 山本佳樹  
 仲田陽子

## 大阪大学言語文化学会会則

- 第1条 本会は大阪大学言語文化学会と称する。
- 第2条 本会の会員は次の2種とする。
1. 通常会員 大阪大学言語文化研究科および言語文化部の教官、大学院生、大学院修了生で所定の会費を納めたもの。
  2. 特別会員 元教官及び本会にとくに貢献したもの。
- 第3条 本会は会員の学術研究を促進するとともに、研究成果の普及をはかり、広く学術全般の進展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は前条の目的を達するために研究会を開催し、機関誌を発行する。
- 第5条 本会の会員は機関誌の配布を受ける。
- 第6条 本会は第3条の目的を達するために年1回、言語文化学会総会を開催する。
- 第7条 本会に次の役員をおく。
1. 会長及び委員、監事をおく。
  2. 会長を言語文化研究科長、副会長を言語文化部長とする。
  3. 委員は原則として教官より5名、大学院院生より5名を選出する。  
なお別に事務担当をおくことができる。
  4. 監事は2名とし、会計の監査にあたる。監事は会長が委嘱する。
- 第8条 本会に委員会をおく。
1. 委員は前条3の委員を持って構成する。
  2. 委員会に委員の互選による委員長、企画・編集委員（若干名）、会計委員（若干名）をおく。
  3. 委員会は本会の運営にあたる。
- 第9条 役員の任期は次の通りとする。
1. 会長及び副会長の任期は言語文化研究科長及び言語文化部長の任期に従う。
  2. 委員の任期は1年とする。
  3. 監事の任期は1年とする。
- 第10条 本会の経費は会員の会費及びその他の収入による。
1. 会費は付則の定めるところによる。
  2. 本会の会計年度は4月より翌年3月までとする。

第11条 本会の事務局は大阪大学言語文化研究科内におく。

- 付則
1. 通常会員は会費として年間3000円を納める。
  2. この会則の改正は、総会において出席者の3分の2以上の賛同を必要とする。
  3. 本会則は平成3年5月8日より発効する。